

財政事情の公表

わがまちの家計簿(平成30年度決算から)

皆様のご家庭が、毎月の給料で食費や光熱水費、学費、ローン返済などの支払いをしながら生活しているように、市でも、皆さんから納付いただいた税金や国・府からの補助金、市債という借入金などの収入で、各種サービスの提供に必要な費用の支払いをしています。

今回は、平成30年度決算と令和元年度上半期(4月から9月まで)予算執行状況などについてお知らせします。

30年度決算状況

平成30年度の一般会計及び特別会計(企業会計除く。)の決算状況は第1表のとおりです。

「柏原市行財政健全化戦略(第2期)」に基づき、財政の健全化に取り組んだ結果、実質収支の黒字を維持することができました。

<第1表> 平成30年度各会計決算状況(企業会計除く。)

(単位:千円)

会計名	予算額 (A)	収入 (B)	支出 (C)	差引(形式収支) (B)-(C)=(D)	翌年度に繰越 すべき財源(E)	実質収支 (D)-(E)	
一般会計	27,434,907	25,350,466	24,725,286	625,180	24,484	600,696	
特別会計	国民健康保険 (事業勘定)	8,890,111	8,304,173	8,331,501	△ 27,328	0	△ 27,328
	国民健康保険 (施設勘定 堅上診療所)	12,205	9,056	9,056	0	0	0
	介護保険	6,512,421	6,184,704	5,937,279	247,425	0	247,425
	後期高齢者医療	978,225	956,990	925,248	31,742	0	31,742

平成31年3月31日現在人口 69,086 人

まず一般会計の歳入を詳しく見てみると、右の第2表のとおりです。

【説明】

歳入の根幹をなす市税収入は、個人市民税が分離長期譲渡所得額の減などにより、前年度に比べて1.3%の減となりました。今後も人口減少や生産人口の減などの影響から厳しい状態が続くと見込まれます。

【主な歳入の増減と理由】

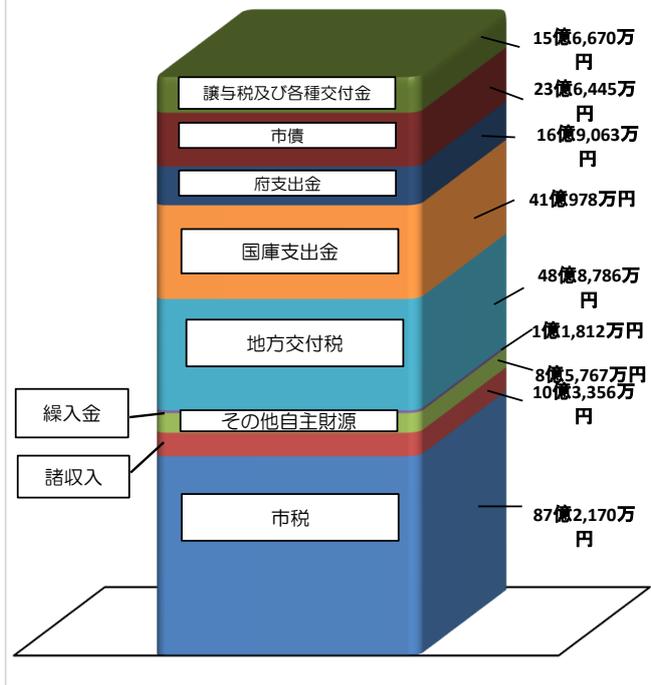
○各種交付金:自動車取得税交付金を除いた各種交付金の減により、6,043万円の減

○繰入金:公園等整備事業基金を充当したことにより、7,303万円の増

○地方債:各公共施設の整備などに伴い、7億5,527万円の増

<第2表> 一般会計歳入一覧

歳入総額 253億5,047万円(市民1人当たり36万6,941円)



つぎに一般会計の歳出を見ると、右の第3表のとおりです。

【説明】

歳出総額は、義務的経費が減少した一方で、投資的経費において多額の事業費を要する事業が重なったことにより、前年度に比べて、3.0%の増となりました。

新庁舎建設事業など、複数年にわたる事業を実施する予定のため、今後も投資的経費は増加するものと見込まれます。

【主な歳出の増減と理由】

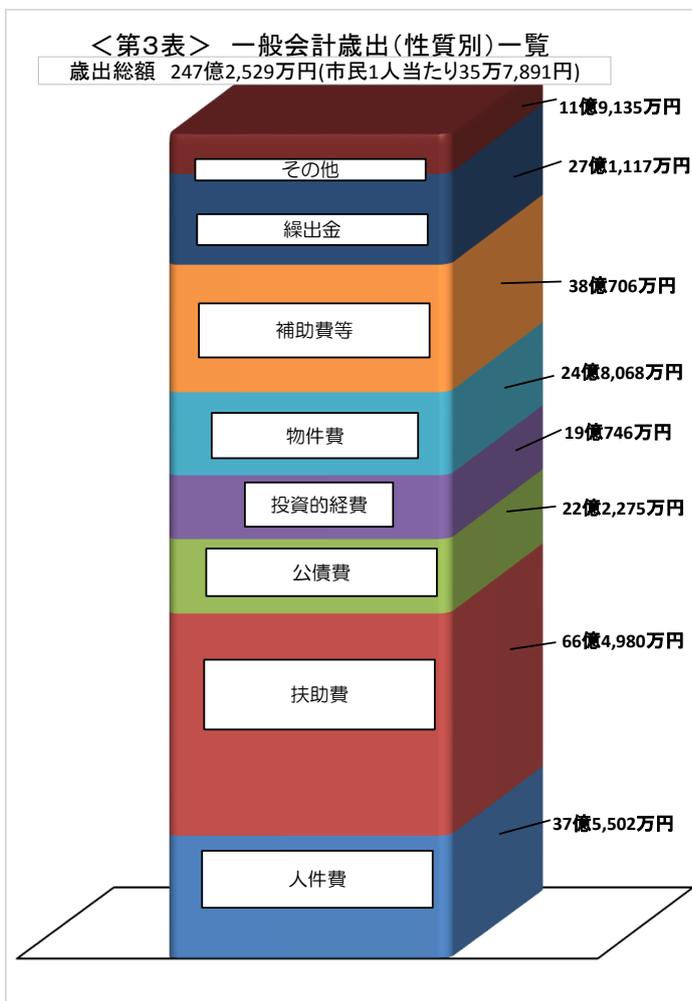
○投資的経費：台風による災害復旧事業費や各公共施設の整備による普通建設事業費の増により10億6,926万円の増

○公債費：借換債の減やリビエールホール建設事業債の償還終了などにより2億2,158万円の減

○投資及び出資金・貸付金：病院事業会計の資金不足に対応するため繰出を行ったことにより2億934万円の増

市の財産

市の財産は、貯金に当たる積立金(基金)と市役所の本庁舎、学校、公園などの公有財産、負の財産である市債の大きく3つに分かれます。これらの財産の平成30年度末の状況は下記の第4・5・6表のようになりました。



＜第4表＞ 積立金(基金)現在高一覧

(単位:千円)

基金名	30年度末 積立金現在高	市民1人当たりの 積立金現在高(円)
主な基金	2,312,738	33,476
うち		
財政調整基金	2,086,037	30,195
公園等整備基金	202,273	2,928
公共施設等 整備基金	24,253	351
その他目的基金	1,046,197	15,143
うち		
老人福祉基金	319,530	4,625
文化・スポーツ 国際交流基金	229,530	3,322

※ 基金とは・・・

ある特定の目的のために積み立てられているもので、市の貯金です。柏原市もいくつかの基金があり、目的に応じて運用されています。ただ、財政調整基金だけは使用用途を制限されない積立金です。

＜第5表＞ 公有財産一覧

(単位:m²)

区分	土地	建物	
行政財産	公用財産	9,433	10,252
	公共用財産	569,447	153,292
普通財産	69,569	6,536	
合計	648,449	170,080	

※公用財産：市が直接業務に使用するためのもの(本庁舎、出張所、教育センターなど)

※公共用財産：住民が一般的に共同利用するためのもの(学校、公園、保育所など)

※普通財産：上記2つ以外の全ての財産で、直接行政目的がないもの

<第6表> 市債現在高

(単位:千円)

会計名	30年度末 市債現在高	市民1人当たりの 市債現在高(円)
普通会計	19,183,344	277,673

※ 市債とは・・・

本来、学校や道路など長期間にわたって利用することができる施設を多額の費用をかけてつくる時に国や金融機関などから借りる長期的な借入金です。利用者の負担の公平性を保つため、長期で返済していきます。(一般家庭で言えば住宅ローンのようなものです。)

しかし、最近では、臨時財政対策債などの財源不足を補てんするための特例的な市債の残高が増加しています。

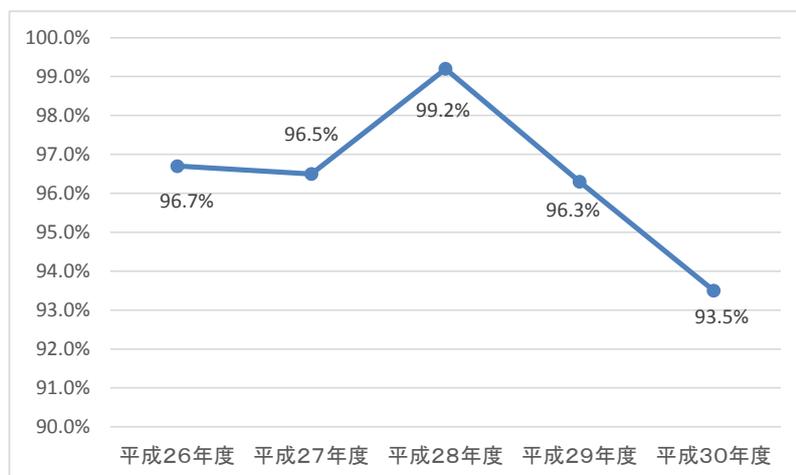
30年度決算からわかること

～財政構造の硬直化と厳しい財政運営～

下の第7表のグラフは、財政構造の弾力性を示す経常収支比率の推移です。平成30年度については、前年度より2.8ポイント改善し、93.5%となりました。

少子高齢化や人口減少などにより歳入の増加が見込めない中、社会保障関係費の増加、老朽化する公共施設の維持管理経費の増加などを考えると、今後も厳しい財政運営が見込まれます。

<第7表> 経常収支比率一覧



※ 経常収支比率とは・・・

毎年度継続して収入される市税などの経常的収入が、毎年度決まって支出される人件費、扶助費のような経常的支出にどれだけ充当されたかを示す指標。おおむね80%を超えないことが望ましいと言われている。

数値が低いほど財政に余裕があることを示す点でエンゲル係数(家計の消費支出に対する食料費の割合)に似ている。

～全力で取り組みます。～

このような状況の中、「柏原市行財政健全化戦略(第2期)」を基本に、財政の健全化を図りながら、将来に向かって夢のあるまちづくりを行っていくために、事務・事業の見直しや効率化、経費の削減、歳入の確保などに、より一層取り組んでいきます。

令和元年度上半期予算執行状況

令和元年度上半期(4月から9月まで)の各会計における収入・支払の状況は下の第8表のとおりです。

<第8表> 令和元年度上半期各会計執行状況(企業会計除く。)

(単位:千円)

会計名	予算額 (A)	収入 (B)	収入割合 (B)÷(A)	支出 (C)	支出割合 (C)÷(A) %	収支差引額 (B)-(C)	
一般会計	28,388,085	12,779,927	45.0	10,783,908	38.0	1,996,019	
特別会計	国民健康保険 (事業勘定)	8,515,366	2,912,330	34.2	3,151,108	37.0	△ 238,778
	国民健康保険 (施設勘定 堅上診療所)	11,994	1,355	11.3	3,854	32.1	△ 2,499
	介護保険	6,820,770	3,154,790	46.3	2,420,990	35.5	733,800
	後期高齢者医療	1,002,759	347,548	34.7	303,470	30.3	44,078

令和元年9月30日現在人口 68,852 人

また、一般会計における市債の9月30日時点での現在高は次の第9表のとおりです。

<第9表> 市債の現在高

(単位:千円)

会計名	9月30日時点の 市債現在高	市民1人当たりの 市債現在高(円)
一般会計	18,260,624	265,216